



7月号

2016年7月発行

発行所
市民活動ネット・チーム長岡京
福祉事業部（パンピオ1番館）
☎075-963-5505 fax:075-963-5523

子育て関連団体へのインタビューです。

子育て関連団体へのインタビュー①

せきゅりてい・ぶらんけつと 代表：田中 ゆか

① あなたの団体の活動状況を教えてください。（PRを兼ねて）

平成21年、子育て団体（かぞく応援）せきゅりてい・ぶらんけつとを立ち上げました。「家庭的保育」という少人数の異年齢保育の保育運営が、地域の保育ニーズに合う安全・安心な子どもにも適切で豊かであり、待機児童対策ともなるので、市が取り組むことの重要性と意義を唱えての始動でした。その後、平成22年に「家庭的保育園レインボーハウス」を開設しました。又国が推奨したことで、27年に長岡京市が家庭的保育を事業と位置づけ、同年4月に市で初の小規模認可園として、「家庭的保育園ピキニーハウス」を、私どもで新設しました。この地で家庭的保育の意義と必要性が理解された瞬間でした。

② あなたの団体の活動の問題点、お悩みの状況等を教えてください。

最近では、子どもの貧困が深刻化し、「居場所づくり」が登場しました。レインボーハウスは、市の放課後児童クラブの入会条件に一致しない、地域で多くの見守りが必要な家庭の受け皿にもなっています。しかし、緊急的な一時保育や延長保育に取り組んでいても、その役割となる保育園に、公立や民間のような保育者や開所時間に対する予算付けはなく、認可外運営側の実施の困難さが理解されず、補助事業の改善が進んでいません。認可外の保育者も公立民間園と同等の尊重と保障がなされるべきで、それらは存続危機の問題ともなり、市が取り組むべき課題だと思えます。

③ ②の問題の解決方法についてどのようにお考えですか、お教えてください。

心と力を合わせる協働の姿勢を、市から積極的に働きかけてくれることが、適切であり重要です。設置主体や運営に関して多様性のある学童保育に、一定の基準が設けられたことは大きな意義がありますが、ガイドラインという性格上、基準を満たすとともに、子育て家庭の利用ニーズに応じた内容にしていくための方策が課題です。その課題に取り組み対応している小さな保育園、小さな事業所があることを知って下さい。その実情を理解し、市長が掲げる協働の意義と裁量を示していただきたいです。



④ その他子育て関連について考えていることが有ればお教え下さい。

市長は、長岡京市議会で、まちづくりは市民と行政が協働し合うものと所信表明しています。私たちの保育や地域活動は、地域の多様な人と共存しそこで得た力を、活動や日常でも一市民でもある自分たちが相互扶助を行うことで、豊かな子育て環境のある、質の高い街づくりとなり、定住促進に繋がると願い活動しています。

子育て関連団体へのインタビュー②

特定非営利活動法人 おとくにパオ代表： 三浦 千尋

① : あなたの団体の活動状況を教えてください。（PRを兼ねて）

『子どもたちにとって、夢中で遊んだり、優れた文化や芸術に心揺さぶられたり、試練を協力して乗り越えたりする体験は、宝物のように大切。そんな宝物をいっしょに作っていききたい。』というのが私たちおとくにパオのテーマです。そのテーマのもとに様々な体験活動を企画しています。

② : あなたの団体の活動の問題点、お悩みの状況等を教えてください。

a. スタッフがもっと増えたらいいなと思っています。いつも人材を募集中です。b. 資金の調達に頭を悩ませています。c. 他に仕事を持っているスタッフがほとんどなので、集まってじっくり話す時間の確保が出来ない。



③ : ②の問題の解決方法についてどのようにお考えですか、お教えてください。

a. 新たな人に出会えるような企画をして、そこでつながりを作りたいと思います。様々な機会を作っています。

b. 助成金の申請をがんばっています。c. 日や時間をやりくりして、できるだけ全員そろっていろいろな話ができるようにしています。

④：その他子育て関連について考えていることが有ればお教え下さい。

この地域の子どもたちが育つ環境が少しでも豊かなものになるよう、街全体で子育てのことを考え、その中で私たちが果たすべき役割は何であるかを、常にフィードバックしながら活動を続けていきたいと思ひます。

新規登録団体紹介

けあきの家（認知症カフェ）

多くの方たちの協力でカフェが出来ました。今回はその報告です。講演で早期診断・早期対応が重要と言ひ続けてきましたが、実際、初期の認知症の方に受けていただけるサービスは余りにも限られています。介護保険はある程度症状が進まないと使えません。ここで物忘れ外来を中心に診療を続けてきた野々下靖子のオッチョコイ虫がうずきました。それなら医院を閉めて初期認知症・MCI・介護家族の相

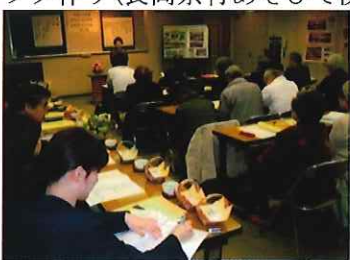


談・地域住民との交流を目標に診断室・待合室を開放しよう！平成27年3月野々下医院閉鎖、同年9月認知症対応型のカフェ「けあきの家」がオープン。ボランティアも当事者も昭和48年開業以来の野々下医院に通いなれた方で、お互い顔なじみです。専門職ボランティアの強力なサポートもあり、毎回ワイワイと賑やかに楽しんでいます。部屋が狭いのが難点ですが、みなさん遠慮なく冗談も出ています。この形が続いていくことを願っています。

新規登録団体紹介

「長岡京市生活学校・生活会議」 お問合せ先:075-951-0093 会長 片山 洋子

50年の歴史有る「長岡京市生活学校」と11年の「長岡京市生活会議」が今年の4月に合併して新たに立上げました。当会は「あしたの日本を創る協会」が上部団体で全国的な組織です。目的は「地域が抱えている諸問題に取組み循環型社会の形成と持続的で活力あるまち・暮らしづくり」をする活動です。具体的には地域や学校との係わりを深めるため、各学校での朝のあいさつ運動・天ぷら油の回収・その油の一部で廃油石鹼やエコロウ



ソク作り（長岡京竹あそびで使用）また「食品ロス削減」活動で食べ残しや直接廃棄を無くするため冷蔵庫の点検、さらにフードバンク取組み等の運動も展開していきます。当会自らもEM農園で無農薬での野菜栽培を行い地産・地消で食の安全・安心活動を進めています。会員44名、生涯学習課に事務局を担って頂き行政と協働でこれからの少子高齢化社会を楽しみながら頑張っていきます。心を同じくできる会員を募集しています。ご一報下さい。

サポセン事務局からのお知らせ

環境/生活/まちづくり/観光・団体交流会の開催ご案内

初回は、長岡京市商工観光課課長木村知継氏を招き、各団体の交流を図ります。

『環境/生活/まちづくり/観光・団体』の交流会は、下記の通りです。

日時： 2016年7月27日（水） 10:00～12:00 場所： バンビオ番館4F 学習室2

子育て関連団体交流会の開催ご案内

市民活動団体が抱える悩みや課題を、同じような活動している仲間同士で共有し、問題解決を図るための情報交換の場として、『子育て関連団体』の交流会を開催します。

日時： 2016年8月7日（日） 13:30～15:00 場所： バンビオ1番館1F 市民活動サポートセンター内ミーティングスペース 持参するもの： 団体をPRするためのチラシ等（30部程度）